科研費

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号: 23903

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2015~2017

課題番号: 15K08351

研究課題名(和文)唾液腺腫瘍に関連した変異遺伝子の分子病理学的および臨床病理学的解析

研究課題名(英文)Molecular pathological analysis of salivary gland carcinomas

研究代表者

稲垣 宏(Inagaki, Hiroshi)

名古屋市立大学・大学院医学研究科・教授

研究者番号:30232507

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文):本研究では、唾液腺に発生する粘表皮癌、腺様嚢胞癌、乳腺類似分泌癌に焦点を当てた。[粘表皮癌]本腫瘍においては、新規亜型であるワルチン腫瘍類似粘表皮癌を提唱し、amphiregukin高発現の意義を明らかにし、CRTC1-MAML2融合遺伝子陽性症例を示す非進行例では術後放射線治療が不要であることを指摘した。[腺様嚢胞癌]MYB、MYBL1、NFIB遺伝子異常、EGFR経路遺伝子異常の意義を明らかにした。また免疫治療と関連が深い癌精巣抗原が多く発現していることを明らかにした。[乳腺類似分泌癌]定型的なETV6-NTRK3融合遺伝子以外に新規遺伝子異常が本腫瘍に関与していることを明らかにした。

研究成果の概要(英文): In this study, we focused on mucoepidermoid carcinoma, adenoid cystic carcinoma, and mammary-analogue secretory carcinoma of the salivary gland. In mucoepidermoid carcinomas, we proposed a novel variant, Warthin-like mucoepidermoid carcinoma; clarified clinicopathological significance of amphiregulin overexpression; and pointed out that postoperative radiotherapy may not be necessary for early stage, CRTC1/3-MAML2-positive cases. In adenoid cystic carcinomas, we clarified clinicopathological significance of gene rearrangements associated with MYB, MYBL1, and NFIB genes, and abnormalities of genes involved in the EGFR signaling pathway. In mammary-analogue secretory carcinomas, we detected a novel chromosomal alteration other than classical ETV6-NTRK3.

研究分野: 分子病理学 唾液腺腫瘍 悪性リンパ腫

キーワード: 分子病理学 粘表皮癌 腺様嚢胞癌 分泌癌 唾液腺腫瘍

1.研究開始当初の背景

【唾液腺腫瘍について】比較的まれな腫瘍で ある唾液腺腫瘍は、種類が約40種類と多彩 であり、病理診断や腫瘍悪性度の評価は、多 くの免疫組織学な検討を行ってもしばしば 困難である。外科治療において、切除範囲、 顔面神経温存、頸部リンパ節郭清などの決定 に客観的な指標が十分明らかにされていな い。近年、EGFR、HER2、ホルモン受容体 などを対象とした分子標的療法も想定され ているが、十分な検討が進んでいるとは言い 難い。【粘表皮癌について】申請者らはこれ までに100例以上の粘表皮癌を解析し、 CRTC1-MAML2 キメラ遺伝子が約半数の症 例に陽性となり、これが組織学的低悪性度と 良好予後と関連することを明らかにした。ま た新しい遺伝子亜型 CRTC3-MAML2 キメラ 遺伝子を報告し、CRTC1-MAML2 症例と同 様、良好な予後を示すことを報告した。さら にこれらの遺伝子異常を粘表皮癌病理分類 に組み入れることが有用であることを示し た。その後、FISH 解析を用いて、MAML2 遺伝子がキメラ遺伝子異常の中心であるこ と、さらに CRTC1/3 以外にもキメラ遺伝子 形成に関与する遺伝子があることを示した。 申請者らの報告以来、粘表皮癌の病理診断や 予後推定に対して、MAML2遺伝子異常は有 用な客観的指標であることが広く世界的に 認識されている。しかしこの腫瘍の前駆病変、 亜型解析、進展因子、分子標的治療への応用 など解決すべき課題は多い。【粘表皮癌以外 の唾液腺腫瘍について】粘表皮癌以外の唾液 腺腫瘍においても多くのキメラ遺伝子異常 が報告されている: 腺様嚢胞癌における MYB-NFIB、唾液腺導管癌・多形腺腫由来癌 における PLAG1/HMGA2、乳腺類似分泌癌 における ETV6-NTRK3。しかし腫瘍発生頻 度が低いこと、病理診断が難しいこと、切断 点が多いキメラ遺伝子検索方法が確立して いないことなどのために、これらの遺伝子異 常のもつ臨床病理学的意義はほとんど解明 されていない。

2.研究の目的

本研究において申請者は代表的な唾液腺 癌およびその亜型を多数症例で解析し、遺伝 子異常の持つ分子病理学的、臨床病理学的意 義を後方視的に明らかにする。そして将来の 前方視的臨床病理学的研究の足掛かりを築 く。

3.研究の方法

【1】代表的な唾液腺癌について、組織 FISH 解析を行い、それぞれの腫瘍における特異的遺伝子の分子病理学的、臨床病理学的意義を明らかにする。【2】粘表皮癌と関連して、MAML2遺伝子異常を示す異型ワルチン腫瘍を我々が開発した FISH - WSI (BAC クローンから独自に FISH プローブを作製し、腫瘍組織全体をデータ化 (Whole slide imaging; WSI)

を用いて解析する。【3】FISH 解析に加えて 免疫染色、リアルタイム RT-PCR、in situ hybridization 法、シークエンス法などを用 いて遺伝子解析し、分子標的治療対象分子の 発現検索、がん関連遺伝子の異常を検索する。

4. 研究成果

- 1) 乳腺類似分泌癌にはETV6-NTRK3 融合遺伝子が特徴的遺伝子異常と考えられていたが、我々はETV6が NTRK3 遺伝子以外の遺伝子と融合遺伝子を形成すること(ETV6-X)を明らかにし、またETV6-Xを有する症例は臨床病理学的に悪性度が高い可能性があることを指摘した(Am J Surg Pathol 2015; 39:602-610).
- 2) 粘表皮癌の一部に、良性腫瘍であるワルチン腫瘍に類似する症例があり、その腫瘍起源が不明であった。我々は FISH シグナルを WSI (Whole slide imaging)の技術により解析し、これらの症例がワルチン腫瘍由来の粘表皮癌ではなく、ワルチン腫瘍に類似した粘表皮癌であることを明らかにした(Am J Surg Pathol 2015; 39: 279-285)。
- 3) アンドロゲン受容体発現は唾液腺導管癌に特徴的とされるが、高悪性度粘表皮癌にもアンドロゲン受容体を発現する症例があり、これを報告した Int J Surg Pathol 2015;23:243-247)。
- 4) 粘表皮癌において amphi regukin の高発現が CRTC1-MAML2 融合遺伝子陽性と関連することを明らかにし、この分子高発現が融合遺伝子有無の推定および良好な患者予後に関連することを明らかにした(Hum Pathol, 2016; 57: 37-44)。
- 5 JT1/2NOMO の粘表皮癌において CRTC1-MAML2 融合遺伝子陽性症例は外科的手術のみで良好な予後を示すことを明らかにし、術後放射線治療が不要である可能性を指摘した (Head Neck, In press)。
- 6)種々の癌精巣抗原が多くの悪性度高唾液 腺癌で発現していることを示し、特に MAGE-A 発現は腺様嚢胞癌においては不良予後と関 連することを明らかにした(Histopathology 2017; 71: 305-315)。
- 7) 唾液腺線条部導管腺腫は稀な腫瘍であるが、血腫を示した症例を報告した。この腫瘍の診断では甲状腺乳頭癌との鑑別が問題となることを指摘した(Pathol Int 2017; 67: 316-321)。
- 8) 唾液腺腺様嚢胞癌では、MYB、MYBL1、NFIB 遺伝子異常がほとんどの症例で関与し、 MYB/MYBL1 異常は腫瘍悪性度、MYC 高発現、 患者予後と関連することを明らかにした (Histopathology 2017; 71: 823)。
- 9) 唾液腺腺様嚢胞癌では、EGFR 経路遺伝子 (特に RAS) の異常が見られ、予後不良因子 であることを明らかにしたが、この知見は抗 EGFR 抗体治療を行う際には重要と考えられ る (Oncotarge 2018; 9: 17043)。
- 10) 頭頸部腫瘍 WHO 分類 2017 では、この中

に含まれる唾液腺腫瘍において、粘表皮癌、 腺様嚢胞癌、明細胞癌、分泌癌の項を担当し、 執筆した。

11) 唾液腺腫瘍への理解が深まるよう、一般 病理医、臨床医を対象に唾液腺腫瘍における 遺伝子異常について解説書を執筆した

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

[雑誌論文](計 14 件)

①Saida K, Murase T, Ito M, Fujii K, Takino H, Masaki A, Kawakita D, Ijichi K, Tada Y, Kusafuka K, Iida Y, Onitsuka T, Yatabe Y, Hanai N, Hasegawa Y, Shinomiya H, Nibu K, Shimozato K, <u>Inagaki H.</u> Mutation analysis of the EGFR pathway genes, EGFR, RAS, PIK3CA, BRAF, and AKT1 in salivary gland adenoid cystic carcinoma、Oncotarget,查読有,9,2018,17043-17055,

DOI:10.18632/oncotarget.24818 ニュアル 2017;89:291-299、耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科. 耳鼻咽喉科検査マニュアル、89、 2017、291-299、査読無、DOI:無し

<u>稲垣宏、</u>齋田昂佑、腫瘍の検査:染色体・遺伝子転座 唾液腺がんを中心に.耳鼻咽喉科・頭頸部外科.耳鼻咽喉科検査マ

Beppu S, Ito Y, Fujii K, Saida K, Takino H, Masaki A, Murase T, Kusafuka K, Iida Y, Onitsuka T, Yatabe Y, Hanai N, Hasegawa Y, Ijichi K, Murakami S, <u>Inagaki H,</u> Expression of cancer/testis antigens in salivary gland carcinomas with reference to MAGE-A and NY-ESO-1 expression in adenoid cystic carcinoma, Histopathology 査読有, 71, 2017, 305-315, DOI: 10.1111/his.13226

Ito Y, Fujii K, Murase T, Saida K, Okumura Y, Takino H, Masaki A, Beppu S, Kawakita D, Ijichi K, <u>Inagaki H.</u> Striated duct adenoma presenting with intra-tumoral hematoma and papillary thyroid carcinoma-like histology, Pathology International, 查読有, 67, 2017, 316-321, DOI: 10.1111/pin.12534

Fujii K, Murase T, Beppu S, Saida K, Takino H, Masaki A, Ijichi K, Kusafuka K, Iida Y, Onitsuka T, Yatabe Y, Hanai N, Hasegawa Y, <u>Inagaki H. MYB, MYBL1, MYBL2</u> and NFIB gene alterations and MYC overexpression in salivary gland adenoid cystic carcinoma, Histopathology, 查読有, 71, 2017, 823-834, DOI: 10.1111/his.13281

Okumura Y, Murase T, Saida K, Fujii K, Takino H, Masaki A, Ijichi K, Shimozato K, Tada Y, Nibu K, <u>Inagaki H</u>. Post-operative Radiotherapy for T1/2NOMO Mucoepidermoid Carcinoma Positive for CRTC1/3-MAML2 Fusions. Head and Neck, 查読有, 2017, 印

刷中, DOI:無し

Ito Y, Fujii K, Murase T, Saida K, Okumura Y, Takino H, Masaki A, Beppu S, Kawakita D, Ijichi K, <u>Inagaki H</u>. Pathology International, 查読有, 2017, 67(6), 316-321, DOI: 10.1111/pin.12534

Beppu S, Ito Y, Fujii K, Saida K, Takino T, Masaki A, Murase T, Kusafuka K, Iida Y, Onitsuka T, Yatabe Y, Hanai N, Hasegawa Y, Ijichi K, Murakami S, Inagaki H. Expression of Cancer-Testis Antigens in Salivary Gland Carcinomas with Reference to MAGE-A and NY-ESO-1 Expression in Adenoid Cystic Carcinoma, Histopathology. 查読有, 71(2), 2017, 305-315, DOI: 10.1111/his.13226

Shinomiya H, Ito Y, Kubo M, Yonezawa K, Otsuki N, Iwae S, <u>Inagaki H</u>, Nibu K. Expression of amphiregulin in mucoepidermoid carcinoma of the major salivary glands: a molecular and clinicopathological study. Human Pathology, 查読有, 57, 2016, 37-44, DOI: 10.1016/j.humpath.2016.06.016

Kusafuka K, Kawasaki T, Maeda M, Yamanegi K, Baba S, Ito Y, <u>Inagaki H,</u> Nakajima T. Salivary duct carcinoma with rhabdoid features: a salivary counterpart against pleomorphic lobular carcinoma of the breast Histopathology 査読有, 2016 70(2):164-173, DOI: 10.1111/ his.12987

Ishibashi K, Ito Y, Fujii K, Masaki A, Beppu S, Kawakita D, Ijichi K, Shimozato K, <u>Inagaki H</u>. Androgen receptor- positive mucoepidermoid carcinoma: case report and literature review. International Journal of Surgical Pathology, 查読有, 23 (3), 2015, 243-247, DOI: 10.1177/1066896914565024

Ito Y, Ishibashi K, Masaki A, Fujii K, Fujiyoshi Y, Hattori H, Kawakita D, Matsumoto M, Miyabe S, Shimozato K, Nagao T, Inagaki H. Mammary analogue secretory carcinoma of salivary glands: a clinicopathologic and molecular study including 2 cases harboring ETV6- X fusion The American Journal of Surgical Pathology, 查読有, 39 (5), 2015, 602-610, DOI: 10.1097/ PAS.00000000000000392

Prieto-Granada CN, <u>Inagaki H</u>, Mueller J. Thymic Mucoepidermoid Carcinoma: Report of a Case with CTRC1/3-MALM2 Molecular Studies. International Journal of Surgical Pathology, 查読有, 23 (4), 2015, 277-283, DOI: 10.1177/ 1066896915576959

Ishibashi K, Ito Y, Masaki A, Fujii K, Beppu S, Sakakibara T, Takino H, Takase H, Ijichi K, Shimozato K, <u>Inagaki H</u>. Warthinlike Mucoepidermoid Carcinoma: A Combined Study of Fluorescence In Situ Hybridization and Whole-slide Imaging The American Journal of Surgical Pathology 査読有 39 (11), 2015, 279-285 DOI:10.1097/PAS.0000000000000000007

[学会発表](計21件)

①稲垣 宏、第56回日本臨床細胞学会秋期大会(招待講演) 2017、唾液腺細胞診における遺伝子異常の関わり シンポジウム 10 唾液腺腫瘍の細胞診:新WHO分類を踏まえて

Inagaki H et al. THE 5TH CONGRESS OF ASIAN SOCIETY OF HEAD AND NECK ONCOLOGY, 2017 Post-operative Radiotherapy for CRTC1/3-MAML2Fusion-positive, T1/2NOMO Mucoepidermoid Carcinoma

<u>Inagaki H</u> et al. THE 5TH CONGRESS OF ASIAN SOCIETY OF HEAD AND NECK ONCOLOGY 2017, 71, 2017,

Inagaki H et al. THE 5TH CONGRESS OF ASIAN SOCIETY OF HEAD AND NECK ONCOLOGY, 2017, Adenoid cystic carcinoma of the salivary glands: MYB, MYBL1, and NFIB fusions and clinical characteristics

<u>稲垣 宏</u>他、第 61 回 日本唾液腺学会学 術集会、2016、唾液腺腺様嚢胞癌における MYB、 MYBL1、MYBL2、NFIB の FISH 解析による検討

稲垣 宏 他、第 61 回 日本唾液腺学会学 術集会、2016、FISH-WSI 法を用いた多形腺腫 モノクローナ リティの細胞レベル解析

稲垣 宏 他、第 61 回 日本唾液腺学会学 術集会、2016、唾液腺腺様嚢胞癌における癌 精巣抗原の発現

稲垣 宏 他、第 61 回 日本唾液腺学会学 術集会、2016、CRTC1/3-MAML2 キメラ遺伝子 陽性唾液腺原発粘表皮癌患者(T1/2N0M0)に おける初回外科的切除後の放射線治療適応 の検討

稲垣 宏 他、第 61 回 日本唾液腺学会学 術集会、2016、唾液腺腺様嚢胞癌における RAS 遺伝子変異の臨床病理学的意義

稲垣 宏 他、第 61 回 日本唾液腺学会学 術集会、2016、粘表皮癌における CRTC1-MAML2 キメラ遺伝子とアンフィレグリンの発現に ついて

稲垣 宏、第55回日本臨床細胞学会秋期大会(招待講演)、2016、唾液腺腫瘍における遺伝子異常とその細胞診断への応用

稲垣 宏 他、第 105 回日本病理学会総会、 2016、唾液腺腺様嚢胞癌における MYB 遺伝子 分離の臨床病理学的検討

稲垣 宏 他、第 105 回日本病理学会総会、2016、唾液腺原発粘表皮癌における CRTC1/3-MAML2 キメラ遺伝子患者の年代別特 徴

稲垣 宏 他、第 105 回日本病理学会総会、2016、耳下腺に発生した Striated duct adenoma の 1 例

稲垣 宏 他、第 105 回日本病理学会総会、 2016、RTC1-MAML2 融合遺伝子を認めた気管原 発の小児粘表皮癌の 1 例 稲垣 宏 他、第 104 回日本病理学会総会、2015、Mammary analogue secretory carcinoma における ETV6 関連キメラ遺伝子異常の検討 稲垣 宏 他、第 104 回日本病理学会総会、2015、アンドロゲン陽性粘表皮癌

<u>稲垣 宏</u>、第 104 回日本病理学会総会(招待講演) 2015、唾液腺腫瘍の遺伝子異常: 腫瘍特異的融合遺伝子を中心に

Inagaki H. 4th Congress of Asian Society of Head and Neck Oncology(ASHNO). (招待講演 X 国際学会)2015, Clinicopathological Significance of Fusion Oncogenes in Salivary Gland Tumors

Inagaki H et al. 4th Congress of Asian Society of Head and Neck Oncology(ASHNO). (国際学会) 2015, Warthin-like Mucoepidermoid Carcinoma: The Proposal of a New Variant

②Inagaki H et al. 4th Congress of Asian Society of Head and Neck Oncology(ASHNO). (国際学会) 2015, ETV6-X Fusion in Mammary Analogue Secretory Carcinoma of Salivary Glands

Clinicopathological significance of RAS gene mutations in adenoid cystic carcinoma of the salivary glands

[図書](計8件)

①<u>稲垣宏</u>他、医学書院、耳鼻咽喉科・頭頚部外科増刊(第89巻第5号)、臨床力UP! 耳鼻咽喉科検査マニュアル、2017、438(p291-299)

Skalova A, Bell D, Bishop JA, <u>Inagaki H,</u> Seethala R, Vielh P. Secretory carcinoma, WHO Classification of Tumours, 2017, 347 (p177-178)

Wenig BM, Bell D, Chiosea S, <u>Inagaki H</u>, Seethala R. Clear cell carcinoma, WHO Classification of Head and Neck Tumours, 2017, 347 (p168-169)

Brandwein-Gensler M Bell D, <u>Inagaki H</u>, Katabi N, Leibo I, Seethala R, Mucoepidermoid carcinoma, WHO Classification of Head and Neck Tumours, WHO Classification of Head and Neck Tumours, 2017, 347 (p163-164)

<u>Inagaki H,</u> Bell D, Brandwein-Gensler M. Mucoepidermoid carcinoma, WHO Classification of Head and Neck Tumours, 2017, 347 (p127)

稲垣宏他、文光堂、病理と臨床、臨時増刊 号、癌の分子病理学、病理診断から治療標的 探索まで、2016、360(p84-90)

稲垣宏 他、文光堂、腫瘍病理鑑別診断アトラス 頭頸部腫瘍 I、2015、258 (p23-31)

<u>Inagaki H</u> et al. WHO Press WHO Classification of Tumours of the Lung, Pleura, Thymus and Heart, 4th ed. 2015, 412 (p270-271)

〔産業財産権〕

出願状況(計 1 件)

名称:染色方法、染色材、及び染色キット

発明者:稲垣宏、高瀬弘嗣

権利者:同上 種類:特許

番号:特願 2017 - 059098

出願年月日:平成29年3月24日

国内外の別: 国内

取得状況(計 0 件)

名称: 発明者: 権利者: 種類: 番号:

取得年月日: 国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/patho2.d
ir/mysite1/index.html

6 . 研究組織

(1)研究代表者

稲垣宏 (INAGAKI, Hiroshi)

名古屋市立大学大学院医学研究科・教授

研究者番号: 30232507